

2017～2021年に収集した細胞培養用牛胎児血清の 牛ウイルス性下痢ウイルス迷入状況調査

中村南斗^{1),3)} 友知久幸^{2),3)} 安藤清彦^{3)†} 西森朝美³⁾
須田遊人³⁾ 松浦裕一³⁾ 岩丸祥史³⁾



本文はこちら

- 1) 秋田県中央家畜保健衛生所 (〒011-0904 秋田市寺内蛭根1-15-5)
- 2) 沖縄県家畜衛生試験場 (〒904-2241 うるま市兼筒段3-1)
- 3) 国研農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台3-1-5)

(2022年1月5日受付・2022年5月17日受理・2022年7月9日公開)

要 約

牛胎児血清 (FBS) において、牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) の迷入は大きな課題である。2017～2021年にかけて収集したFBS 41検体についてBVDVの迷入状況を調査した結果、ペスチウイルス特異的RT-PCRの陽性検体は34検体 (82.9%)、BVDV特異的抗体の陽性検体数は、BVDV1及びBVDV2に対する中和試験でそれぞれ17検体 (41.5%) と1検体 (2.4%) であった。RT-PCR陽性かつ市販のBVDV抗原ELISAで高値を示した10検体についてBVDV分離を試みたところ、感染性を持つウイルスは検出されなかった。BVDV遺伝子及びBVDV中和抗体陰性のFBSは5検体 (12.2%) のみであった。したがって、FBSの利用においてはBVDVに由来するリスクがあることに留意する必要がある。——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV)、牛胎児血清 (FBS)。

----- 日獣会誌 75, e139～e144 (2022)